

CASBEE® 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.8)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	精華中学校	階数	地上3F
建設地	京都府相楽郡精華町南福八委丸山	構造	RC造
用途地域	住居地域、22条地域	平均居住人員	520 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,200 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年8月 予定	評価の実施日	2014年3月1日
敷地面積	18,659 m ²	作成者	木村 聡
建築面積	2,682 m ²	確認日	
延床面積	6,995 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.3</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★</p> <p>環境品質 G</p> <p>環境負荷 L</p>	<p>標準計算</p> <p>① 参照値 100%</p> <p>② 建築物の取組み 74%</p> <p>③ 上記+②以外のオンサイト手法 52%</p> <p>④ 上記+オフサイト手法 52%</p> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q のスコア = 2.8</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 2.9</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 3.2</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 2.5</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR のスコア = 3.5</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 3.9</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 3.1</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.6</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>適合</p> <p>公立中学校の校舎として標準的な水準を満足する計画とする。地域交流の拠点となる学校づくりを目指し、一部校舎開放が可能な計画とする。災害時の避難所として利用できる計画とする。建物の高さを抑え、かつ勾配屋根とし周囲の住宅、田園との調和を図る。また省エネ対策を取り入れる。建物のコアに光庭、水廻り、EVを集約した計画とする。</p>		<p>その他</p> <p>既存敷地内で校舎を新設した後に既設校舎を撤去する計画とし、仮設校舎を設けない計画とした。</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>公立中学校の標準的な水準を満足する計画とする。普通教室は全て南向に配置する。廊下、便所にも通風、採光を取込む光庭を設置する。特別教室は騒音を考慮した配置計画とす。外壁、屋根面へ断熱材の設置、グレアを抑制する</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>公立中学校の標準的な水準を満足する計画とする。教室を集約し、授業の移動をコンパクトにまとめる。建築物移動等円滑化基準に基づいた計画とする。テラス、ホールを憩いのスペースとして設ける。空調機器の将来設置を見越し</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>公立中学校の標準的な水準を満足する計画とする。校舎側スペースは地域交流時、来客者の駐車場として利用、大型バスの乗入も可能な計画とする。有事の際、緊急時、メンテナンス時に校舎の周囲を車両が通れる計画とする。西</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>公立中学校の標準的な水準を満足する計画とする。太陽光発電設備を設置する。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>公立中学校の標準的な水準を満足する計画とする。マンホールトイレを設置しプールの貯留水を利用した計画とする。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>公立中学校の標準的な水準を満足する計画とする。透水性舗装を採用し雨水排水量の抑制をする。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCO₂の算定条件等については、「LCO₂算定条件シート」を参照されたい